

2026年度

入学試験問題

社 会

40分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. えんぴつ鉛筆などの筆記用具・消しゴム以外は使わないこと。
4. 用紙を立てて見ないこと。
5. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気持ちが悪くなった場合は、だまって手をあげること。
6. 解答用紙のみ回収します。

日本の歴史は、中国や朝鮮半島からたくさんの影響を受けています。とくに、東アジア全体に強い影響力を持っていた中国からは、私たちが現在も使っている漢字をはじめとして、学問・思想・芸術など、さまざまなものを取り入れてきました。ここでは、日本が中国から取り入れたもの、とくに文字や文化に目を向けてみましょう。

1 次の文章を読んで問に答えなさい。

今から 2000 年ほど前、倭とよばれていた日本列島のことがはじめて文字で記されたのは、漢文で書かれた中国の歴史書でした。それによると、倭にはたくさんの小国があり、中国に使者を送ってみつぎ物をわたし、あいさつをする国もあったと記されています。こうした小国のひとつが奴国でした。これに対して中国の皇帝は奴国の王の地位を認め、①「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。この金印は、日本列島に残る漢字が記されたもっとも古いもののひとつです。ただし、このころはまだ日本列島の中で漢字が本格的に使用されることはなかったと考えられています。

また、中国の別の歴史書『魏志』の倭人伝には、②3 世紀ごろの倭を治めていた女王が中国に使者を送り、皇帝にみつぎ物をわたして王の称号や返礼品（印や鏡など）を与えられたことが記されています。

このように、古い時代の日本列島のことを知る手がかりとなる文字の記録は、中国で、中国の文字を使ってつくられたものなのです。これらの記録から、日本と中国が古くからかわりをもっていたことがわかります。

4～5 世紀ごろを中心に、中国や朝鮮半島から日本列島に移り住む人々が増えました。こうした人々は③渡来人とよばれ、さまざまな文化や技術を日本列島に伝えました。中でも漢字のもたらした影響は大きく、たとえば「④獲加多支鹵」「意柴沙加」のように、漢字を読むときの音を当てはめて日本列島の人名や地名などを書き表すことができるようになりました。大和朝廷はさまざまな記録や外交文書の作成を、漢字を用いて行うようになりました。その後、儒教や、インドで生まれた⑤仏教に関する書物や経典が中国から朝鮮半島を経て日本列島に伝わりました。

7 世紀には、大和朝廷は中国を統一した隋や⑥唐に使節を派遣して政治制度や思想、文化の吸収に努め、⑦中国を手本にして最初の本格的な都を築きました。さらに、8 世紀のはじめには中国にならって⑧国を治める新たなしくみが整えられるとともに新しく平城京もつくられました。また、この時代には、⑨『古事記』や『日本書紀』など日本のことについて漢字を用いて記した書物がつくられました。

問1 下線部①について、江戸時代にこの金印が発見された場所として正しいものを、下の地図中のア～エから1つ選んで答えなさい。

地図



問2 下線部②について、この女王を答えなさい。

問3 下線部③について、渡来人について述べた文としてまちがっているものを、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

- ア このころ中国や朝鮮半島でおこっていた戦乱を逃れてきた人々が多かった。
- イ 地面を浅くほり、屋根を草などでふいてつくる、たて穴住居の建て方を伝えた。
- ウ のぼりがまを使い、これまでより薄くてかたい、新しい土器のつくり方を伝えた。
- エ 大和朝廷から政権内で役割を与えられて、役人として活動する者もいた。

問4 下線部④について、これは大和朝廷の王の名前です。この名前が刻まれた剣や刀が現在の関東地方と九州地方の古墳で見つかっています。これらの剣や刀は何という金属でできていましたか。答えなさい。

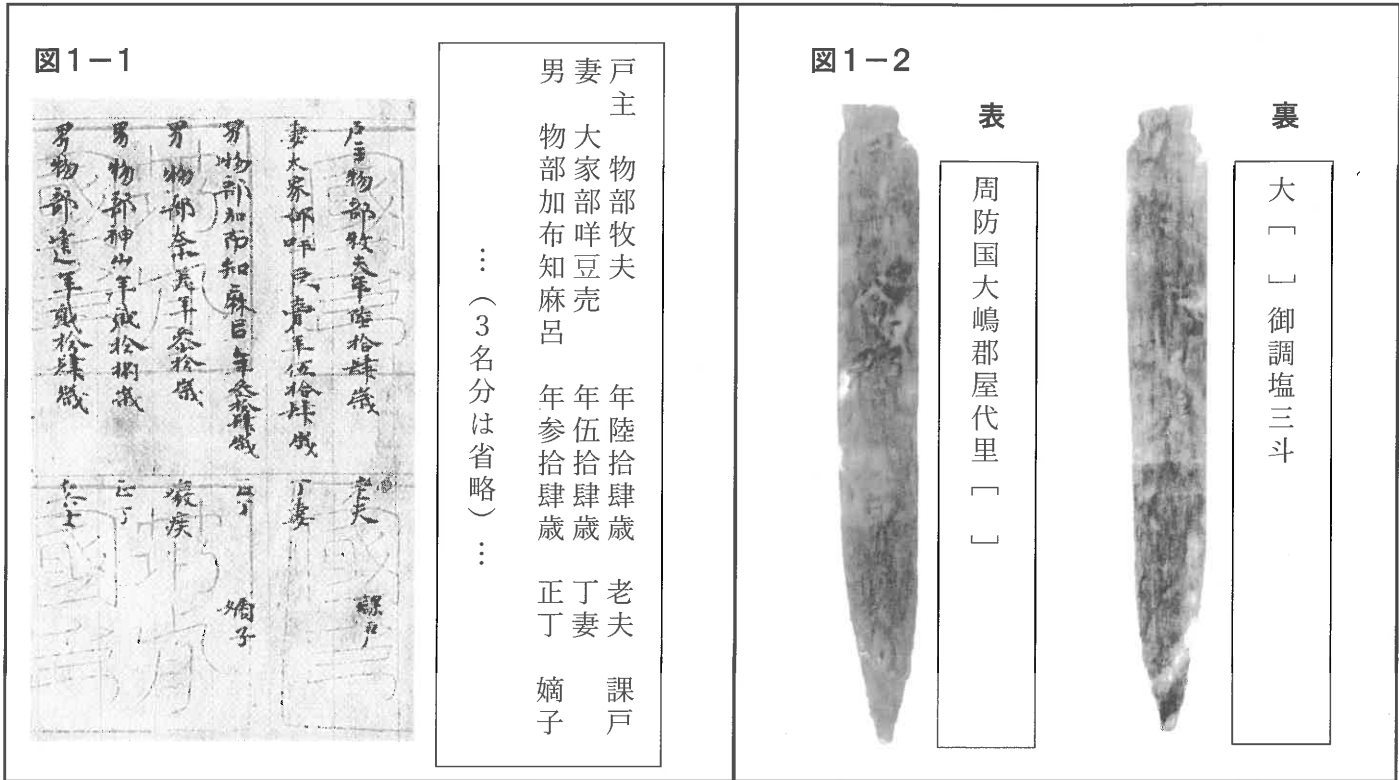
問5 下線部⑤について、飛鳥時代から奈良時代にかけての仏教について述べた文として
まちがっているものを、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

- ア 聖徳太子は、政治を行う役人の心がまえを示した十七条の憲法の中で、仏教をあ
つく敬うことを求めた。
- イ 聖武天皇は、仏教の力で社会の不安をしずめて国家を治めようと、国ごとに国分寺
を建てることを命じた。
- ウ 僧の行基は、人々のために橋や池などをつくりながら仏教を広めていたが、東大寺
の大仏づくりに弟子たちと協力した。
- エ 中国で位の高い僧であった鑑真は、苦難の末に来日して奈良に法隆寺を開き、日本
の仏教の発展に貢献した。

問6 下線部⑥について、7世紀には大陸で唐と朝鮮半島の国々との間で争いがおこった
ことから、大和朝廷は北九州に兵士を送って国の守りにつかせました。このような兵
士を何とよびますか。答えなさい。

問7 下線部⑦について、この都の名前を答えなさい。

問8 下線部⑧について、下の図1-1と1-2は、この時代の役人が漢字を使って記したものです。これらを見て、朝廷がどのように人々を支配していたのか説明しなさい。



※正確な読み方がわかっていないため、ここではふりがなをつけていません。また、[]は文字が不明りょうな部分を表します。

図の説明

図1-1 戸籍 筑前国（現在の福岡県）のひとつの家族を構成する人々の情報が次のように書かれている。

	名前	年れい	補足
戸主	物部牧夫	64 才	税を納めるこの家の主人。
妻	大家部咩豆売	54 才	物部牧夫の妻。
男	物部加布知麻呂	34 才	物部牧夫の息子。

図1-2 木簡 周防国（現在の山口県）から塩が都に送られた時に付けられていた札。表に送り元の場所、裏に品物が書いてある。「斗」は容積の単位。

奈良国立博物館『奈良国立博物館の名宝—1世紀の軌跡—』（1997 年），
奈良国立文化財研究所『平城京木簡 — 長屋王家木簡 —』（1995 年）より作成。

問9 下線部⑨について、8 世紀にはこのほかにも、地域の自然や人々の生活について述べた書物がつくられました。その書物の名前を答えなさい。

2 次の文章を読んで問に答えなさい。

平安時代のはじめの朝廷では、中国を手本にした儀式や作法が確立され、貴族たちが引き続き漢文でさまざまな文書をつくっていました。

9世紀になると、唐がおとろえはじめ、①日本からの遣唐使の派遣が取りやめられました。このころから、中国文化を受けつぎながらもこれを日本の文化に合わせて工夫する動きが occurred。その代表的な例が、漢字をもとにした日本独自の文字の登場です。これらは、漢字の一部分をとってつくった(あ)や、漢字をくずして単純な形にした(い)で、まとめて「かな文字」とよばれます。こうしたかな文字を使って②新たな文学作品が生み出されていきました。

一方、藤原道長をはじめとする貴族たちは、日々の仕事の記録を残し、子孫に儀式での正しいふるまいなどを伝えるために日記をつけていました。こうした日記は漢字を使って書かれました。

このころの話として次のようなものもあります。ある時、歌人として有名な藤原公任という貴族が、道長のもよおした川遊びに参加しました。和歌、漢詩、音楽の3つの船が用意され、貴族たちはそれぞれ自分が得意なことの船に乗るという遊びでした。公任は後日、この日のことを回想して「深く考えずに和歌の船に乗ってしまったが、漢詩の船にこそ乗るべきだった、もっと名をあげることができたのに」と悔やんだといひます。貴族たちは国を治めるための文書や日記のほかにも、漢文で詩をつくっていたことがうかがえる話です。

このように、平安時代には、日本独自の文化が生まれつつも、それまでに中国から受け入れた文化が完全になくなってしまふことはありませんでした。たとえば貴族たちの間では、③中国から受け入れた年中行事が行われていました。

遣唐使が派遣されなくなつてからも、商人や僧たちは交流を続けていました。中国から輸入された陶磁器などの品は「唐物」とよばれて貴族や僧たちによって高値で取引されました。

武士としてはじめて太政大臣となつた平清盛は、中国の(う)との間で行われていた貿易利益の独占を目指して兵庫の港の整備を行いました。さらに、日本からは多くの僧が中国にわたつて仏教を学び、漢字で書かれた経典を持ち帰りました。とくに、室町時代には3代将軍であつた(え)が明との国交を開いたこともあり、僧たちが幕府の政治や外交の補佐役として重く用いられることもありました。また、④室町時代には両国間の交流が活発になる中で新たな文化が生まれました。

しかしその後、戦国時代を経て全国を統一した豊臣秀吉は、朝鮮に大軍を送つて明と対立し、国どうしの正式な関係は断絶しました。

問1 下線部①について、このころ天皇に重く用いられた貴族で、遣唐使の取りやめをすすめ、のちに九州へ送られた人物を答えなさい。

問2 空らん(あ)(い)にあてはまるかな文字の種類をそれぞれ答えなさい。

問3 下線部②について、このような文学作品のうち、紫式部^{むらさきしきぶ}が書いた作品を、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

ア ^{げんじものがたり}源氏物語 イ ^{とさにつき}土佐日記 ウ ^{ほうじょうき}方丈記 エ ^{まくらのそうし}枕草子

問4 下線部③について、こうした年中行事のうち端午^{たんご}の節句^{せっく}は、現在5月5日に行われています。病気などを遠ざけるために、この日かざられる植物を、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

ア ^{もも}桃 イ すすき ウ ^{しょうぶ}菖蒲 エ ^{ささ}笹

問5 空らん(う)にあてはまる中国の王朝を答えなさい。

問6 空らん(え)にあてはまる人物を答えなさい。

問7 下線部④について、室町時代の日本と中国の文化的なかかわりについて述べた文としてまちがっているものを、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

- ア ^{あしかがよしまさ}足利義政は、中国式のお堂と畳^{たたみ}や障子^{しょうじ}を用いた書院造^{しょいんづくり}の2層からなる銀閣^{ぎんかく}を建てた。
- イ インドや西アジアから中国を経て運ばれたガラス製品や楽器を納めるために、^{しょうそういん}正倉院が建てられた。
- ウ ^{せつしゅう}雪舟は中国で水墨画^{すいぼくが}を学び、帰国後は日本各地をめぐり自然を題材とした絵^えを描いた。
- エ 中国からもたらされた文化である茶を飲む習慣が、貴族や武士たちの間に広まった。

3 次の文章を読んで問に答えなさい。

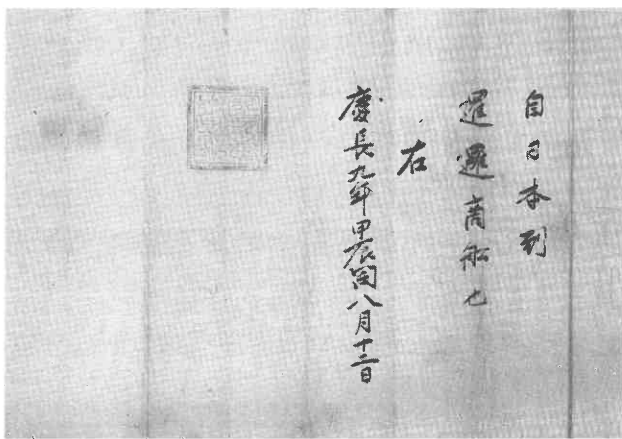
江戸時代のはじめ、将軍は大名や商人に海外へ出かけるための①許可証を与え、貿易に力を入れました。この許可証は、漢字を使って書かれていました。

その後、幕府は日本人が海外に行くことを禁止し、貿易を制限する鎖国とよばれる政策をとりました。海外との交流は②4つの窓口を通じて行われました。③それまで貿易を行っていたスペインやポルトガルの船は来航を禁止され、長崎で中国やオランダとの貿易が行われました。

中国からの貿易品の中には書物も含まれ、『三国志演義』や『西遊記』などの小説が日本に伝わり、やがて多くの人々に読まれるようになりました。また④このころ武士の子どもたちは、武芸に加えて、儒教をもとにした儒学を学びました。幕府も、上下関係や、それぞれの身分にふさわしい行動を求める儒学を重んじました。⑤町人や百姓の中にも『論語』などを使って読み書きを学ぶ人が増えました。

問1 下線部①について、下の図2は、1604年に徳川家康が発行した許可証です。このような許可証を何とよびますか。答えなさい。

図2



右側2行の文字
自日本到
暹羅商船也
意味
日本からシヤム（現在のタイ）に行く貿易船である。

きゅうしゅうこくりつはくぶつかん とうきょうこくりつはくぶつかん にほんけいざいしんぶんしゃ ほとけ くに かがや
九州国立博物館・東京国立博物館・日本経済新聞社 『タイ 仏の国の輝き』(2017年)より作成。

問2 下線部②について、次の 内の文は、長崎以外の3つについて述べたものです。文中の空らん（ A ）～（ C ）にあてはまる語の組み合わせとして正しいものを、あとのア～カから1つ選んで答えなさい。

薩摩では、（ A ）を通じて中国の品物を手に入れていた。対馬は、（ B ）から江戸に向かう使節団をむかえる窓口になっていた。松前では、（ C ）の人々から海産物や毛皮などを手に入れた。

- | | |
|-------------------------------------|-------------------|
| ア A－アイヌ，B－朝鮮，C－琉球 ^{りゅうきゅう} | エ A－朝鮮，B－琉球，C－アイヌ |
| イ A－アイヌ，B－琉球，C－朝鮮 | オ A－琉球，B－アイヌ，C－朝鮮 |
| ウ A－朝鮮，B－アイヌ，C－琉球 | カ A－琉球，B－朝鮮，C－アイヌ |

問3 下線部③について、次の（1）（2）に答えなさい。

（1）江戸幕府は、なぜスペインやポルトガルの船の来航を禁止したのですか。説明しなさい。

（2）鎖国が行われはじめたころの長崎での中国やオランダとの貿易について述べた文として正しいものを、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

- ア 中国やオランダとの貿易では、日本に主に生糸^{きいと}が輸入された。
- イ 中国やオランダとの貿易では、日本は輸入品に自由に税をかけることができなかった。
- ウ 中国との貿易では、将軍は日本についての報告書を商人を通じて皇帝に送った。
- エ オランダとの貿易は、はじめ出島^{でじま}で行われたが、平戸^{ひらど}に移された。

問4 下線部④について、江戸時代に全国各地で武士の子どもたちの教育機関としてつくられた学校を何とよびますか。答えなさい。

問5 下線部⑤について、江戸時代に町人や百姓の子どもたちが通って読み書きを学んだ教育機関を何とよびますか。答えなさい。

問6 これまでの問題文や問をもとにして、漢字が伝わってから江戸時代にかけて、どのような人々が漢字を使っていたか、江戸時代より前と江戸時代のちがいが分かるように説明しなさい。

4 次の文章を読んで問に答えなさい。

江戸時代には、中国から手に入れた書物を通じてさまざまな研究が行われました。中でも熱心に研究が行われたのは天文学でした。天文学は日本では古くから暦学^{れきがく}とよばれ、太陽や月などの動きをもとにして暦^{こよみ}をつくる学問として発展してきました。

日本では、唐で使われていた「宣明暦^{せんみょうれき}」という暦が平安時代から用いられてきましたが、しだいに誤差が広がってしまいました。そこで、江戸時代前半の1684年、天文学者の渋川春海^{しぶかわはるみ}は、誤差を修正した「貞享暦^{じょうきょうれき}」を完成させました。この暦は、元で用いられた暦に明の時代の世界地図の情報を加え、さらに日本国内で行った天体観測の結果も加えたものでした。これ以降、貞享暦が使われるようになるとともに、幕府は天体観測や暦づくりを行う天文方^{てんもんがた}を設置しました。

このあと、8代将軍徳川吉宗^{とくがわよしむね}は学問を奨励^{しょうれい}する政策をうちだし、1720年には漢文に翻訳されたヨーロッパの書物の一部を輸入することを新たに許可したほか、オランダ人からオランダ語や海外の知識を学ぶように、儒学者に命じたりしました。こうして、江戸時代半ば以降、鎖国をしながらもヨーロッパの学問を研究する①「蘭学^{らんがく}」がしだいに各地に広がっていきました。この動きのほか、②「国学^{こくがく}」もさかんになりました。

1790年代になると、当時天文方に任じられていた高橋至時^{たかはしよしとき}が、ヨーロッパの天文学の基本的な理論^{しん}を清で漢文に翻訳した書物をもとに、「寛政暦^{かんせいれき}」とよばれる暦をつくりました。その後、江戸時代末期の1842年、天文方ではオランダ語で書かれた天文学書の翻訳を行い、その成果をもとに「天保暦^{てんぽうれき}」とよばれる暦をつくりました。このようにして、天文学の分野では江戸時代に大きく研究が進みました。

1850年代になって鎖国が終わり、さらに江戸幕府が倒れて明治時代になると、新政府は（お）を大使とする使節団をアメリカやヨーロッパに派遣するなど、欧米^{おうべい}を手本として近代国家を目指す動きを加速させていきました。このような中、新政府は欧米と同じ太陽暦を採用することにしました。しかし、農村部などでは引き続き江戸時代の暦が使われたところもありました。新政府が目指した近代化は全国で一様に進んだわけではなかったのです。

問1 空らん（お）にあてはまる人物を答えなさい。

問2 下線部①について、蘭学について述べた文としてまちがっているものを、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

ア 医者^{すぎたげんばく}の杉田玄白^{すぎたげんぱく}らは、オランダ語の医学書を訳して『解体新書^{かいたいしんしょ}』を出版した。

イ 伊能忠敬^{いのうただたか}は、西洋の測量術を学んで日本全国を回り、日本地図をつくった。

ウ 蘭学を学んだ人の中には、幕府の政策を批判したために、罰^{ばつ}せられた人もいた。

エ オランダ語からカステラやカルタといった言葉が日本語に取り入れられた。

問3 下線部②について、国学について述べた文として正しいものを、次のア～エから1つ選んで答えなさい。

- ア 国学者の大塩^{おおしおへいはちろう}平八郎は『古事記』を研究し、『古事記伝^{こじきでん}』を書いた。
- イ 国学では、仏教や儒教が伝わる前の日本人の考え方が研究された。
- ウ 国学では、天皇よりも将軍の地位を重んじる考え方が重視された。
- エ 国学者に率いられて、島原^{しまばら}・天草^{あまくさいつき}一揆がおこった。

問4 江戸時代の間に、天文学者たちは新しい暦をつくりました。このうち貞享暦は、中国で研究された天文学の知識を漢文の資料から学び、つくられました。そのあと江戸時代にできた2つの暦はどのようにつくられたか、貞享暦とのちがいが分かるようにそれぞれ説明しなさい。

1

問 1

問 2

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

※

問 8

※

問 9

2

問 1

問 2

あ

い

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

※

3

問 1

問 2

問 3 (1)

※

(2)

問 4

問 5

※

問 6

※

4

問 1

問 2

問 3

※

問 4

※

受験番号		氏名		評点	※
------	--	----	--	----	---